



新学期がスタートしました！



昨年から社会の生活様式が一変し、学校などの公共施設でも、運営に試行錯誤の日々が続きました。しかし、やはり「春」は来ました。人間が恐れるウイルスは、人間が求める美しい自然には手出しが出来ません。人間は自らの弱さを自覚し、自然の偉大さに畏敬の念を抱きながら、謙虚に「人間としてより良く生きるとはどういうことか」と自問しながら生きていかざるを得ないと、コロナ禍で教えられた気がしています。

大げさな前置きになりましたが、令和3年度が始まり、それぞれの学校や園では新たな仲間を迎え、慌ただしくも充実した日々をお過ごしのことと存じます。

昨年度より、当センターは小竹・藤井・大島の三人で運営しており、本年度も同じ体制でのスタートとなりました。今後も皆様のご協力をいただきながら、効果的な巡回活動に努めてまいりたいと思っておりますので、ご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。



美しいものへの感動と畏敬の念を

～中学校教科書「私たちの道徳」より～

広大な平原、そびえ立つ山脈、
果てしない水平線
地球には息をのむほどの
美しい自然がある。
地球の自然は、
人類が誕生するはるか前から育まれてきた。
人間だけでなく、あらゆる動植物は
自然の恵みによって生命を営んでいる。
しかし、ときに、自然は荒々しい姿を見せる。
海は荒れ狂い、
山は噴煙を上げ、
大地は揺れる。
自然は私たちに感動や恵みを与えてくれる。
同時に、自然は、人間の力を超えた力で、
私たちに畏敬の念を抱かせる。
私たちは、有限な存在である。
そのことを謙虚に受け止めながら、
その中で人間としてより良く生きるとは
どういうことを考えていきたい。

この他、教科書には地震学者の大木聖子さんの「私たちのために地球という星があるわけではありません」という表題で、地球という星に間借りをして暮らしているのは私たち人類の方で、地球の恵みに感謝をしよう！という文章も記載されていました。



個人差重視する子育て

東京五輪・パラリンピックの大会組織委員会による女性に関する問題発言があり、ジェンダーの問題が話題となっています。2月9日の読賣新聞でもこの問題が取り上げられていました。子育てに関する内容なので、少しご

紹介したいと思います。

「有害な男らしさ」に縛られないため、男の子の子育てで親や周囲の大人はどんなことに気を付けたらいいのだろうか。大正大准教授(男性学)の田中俊之さんは、男の子に「男ならがんばれ」「男だろ」と言って、無理な努力や我慢をさせる声かけは避けるべきだと注意を促す。自分の弱さを見せることができなくなるなど、男の子を追い込む結果にしかならないからだ。

田中さんは「好みや向き不向きは、男女というよりも個人差の方がはるかに大きい」と指摘。「男だから、女だからと、大人が思い込んでいる『男らしさ』『女らしさ』に当てはめず、その子がどういう子なのかを見てほしい」と話す。

また、テレビなどで暴力や性差別になるような場面を見た時にはその都度、「これはいけないことだよ」と子どもを諭すべきだという。「機会をとらえて子どもが気にしたときに丁寧に伝えていくことが大切」としている。

そして、「男の子の子育てで気をつけたいこと」として5点あげられていました。

- ・ 乱暴な振る舞いをしたら、きちんと叱る
- ・ スカートめくりやカンチョーのような行為は、性暴力になると教える
- ・ 女子への意地悪を、好意の裏返しなどと捉えずに叱る
- ・ 男であることを理由に、何かを我慢させたり無理に何かをやらせたりしない
- ・ テレビなどで性差別や暴力に関する場面を見たら、いけないことだと説明する

白ポスト

ネット社会が拡張しているせいなのか、白ポストの回収量も、年々減少する傾向にあります。市内には左下の写真のような、白いポストが金光公民館前、浅口市中央公民館前、寄島サンパレアに設置されています。

本年度5月、8月、11月、2月の計4回に渡り、回収に行った結果は以下の表の通りです。昨年度と比較して、全体で84点の減少となっており、合計でも平成25年度には475点もの数が増上っていたことを考えると、ここ数年で激減していることがうかがえます。

現在の情報社会のことを考えると、今後の在り方を考える時期なのかも知れません。



寄島サンパレアに設置している白ポスト

	種類	金光	鴨方	寄島	合計
令和2年度 合計	本	16	41	10	67
	DVD	34	17	0	51
	ビデオ	2	0	0	2
	計	52	58	10	120

	種類	金光	鴨方	寄島	合計
令和2年度 令和元年度 の比較 (増減)	本	-5	-9	10	-4
	DVD	-82	11	0	-71
	ビデオ	-9	0	0	-9
	計	-96	2	10	-84

～白ポストの設置目的～

「アダルト系」の雑誌や本、ビデオテープやDVDが子どもたちの目に触れることなく回収・処分されることにより、有害情報から子どもたちを守る。